

令和6年度小山市民フォーラム 第1回おやま井戸端会議 議事録

日時： 令和6年6月9日(日)13:00～14:30

会場： 城山公園再整備エリア

出席者： 16人

スケジュール：

(1) 開会	13:00
(2) 市長挨拶	13:00～13:05
(3) 運営委員長挨拶、運営委員紹介、注意事項説明	13:05～13:10
(4) 意見交換	13:10～14:20
(5) 参加者、運営委員長及び3役から感想等の発表	14:20～14:30
(6) 閉会	14:30

参加者(運営委員含む)の意見(要約)

地域との関係づくりについて

- ・地域の子どもは地域の大人が見るべきだと思っている。
- ・仕事で帰りが遅くなるときは近所のおばあちゃんが子どもを見てくれることがある。核家族での生活は限界があるので、地域の人に支えてもらいたい。
- ・近所の人に面倒を見てもらうまではしなくても、近所の方の目があるから安心だなというような街になってほしい。
- ・地域の人も子ども達とどう関わってよいのか、怪しまれないかという不安があるので、そういった不安を解消できるとよい。
- ・地域の人たちで学校・子ども達を支えていけるとよい。地域で学校の子ども達を見守っており、仕事をしながら・何かしながら登下校などを見守る「ながら見守り」をやっているところもある。
- ・一部の地域では結束が強すぎて、新しく来た人が入りにくいところもある。
- ・自分は困っていなくても他の人は困っていることがあるので、お互いがコミュニケーションをとれる場があると良い。また、そういう場を自ら作ることも大切だと思う。
- ・周りの人に手伝ってもらうために自分から声をかけてあげられるような人を育てることも重要で、そのためには挨拶が大切だと思っている。
- ・町内の会館等を開放して、近所の人子ども達を見てくれたり中学生・高校生が勉強を教えてあげたり一緒にご飯を食べたりできるようになると良い。

子どもの預け先について

- ・保育園には入れたけれど学童になかなか入れない、預け先がないという声が多い。
- ・一部のマンションでは共同の施設があるので、そういう場で地域の子どもが過ごせる場所を作れないか。
- ・妹が生まれてお母さんとの時間をとられてしまったという意見に声があったが、一時預かりを利用して上の子との時間をとれるようになるとうい。
- ・近くに親戚がおらず、預け先がない場合には何かするのを諦めなければならなくなるので一時預かりの充実をしてほしい。
- ・一時預かりの場所を複数箇所探そうとすると、利用申請・利用予約を各々に行わなければならず

手間である。

- ・一時預かりの目的には、子育てをしていて一人になりたいときに使うことも目的のはずだが、そのような使い方では断られてしまう保育園もあるようだ。現状と目的を確認してほしい。
- ・シルバー人材センターで子育て支援のサービスを行っているが、この制度はあまり知られていないのもっと周知すべきである。
- ・シルバー人材センターと行政でコラボしてできることは他にもあるのではないか。
- ・ファミリーサポートセンターは認知されているものの利用率が低い。認知度があっても利用されない現状を解決していくのが行政の腕の見せ所だと思う。
- ・子どもが集まるところにファミリーサポートセンターがないと利用しづらいのではないか。

子どもたちの居場所について

- ・何かあったときの預け先、特に居場所問題はとても深刻である。
- ・学校でも家庭でも見せられない子ども達の葛藤があったときに、学校・家庭以外の第3の居場所があれば子ども達の心が救われるのではないか。
- ・子ども達の居場所の数は多ければ多いほど良いと思う。
- ・児童館の存在を知らない方がいて活用している人も少ない現状があるのではないか。

学校について

- ・学校の行けない子ども達のなかには、学校に行けない理由が分からない子も多い。
- ・教室で苦しんでいるけれど、その姿を親にも学校にも見せずにいる子もいると知って問題を感じている。そういう子を早期に見つけてあげられる環境をつくってほしい。
- ・宇都宮市では、大学生が学校に通えない子ども達に勉強を教えるというシステムがあるようだ。
- ・SNS が普及しているため、SNS も活用していけるような仕組みがあるとよいのではないか。

経済面について

- ・生活の一部としてお金の問題は非常に重要で、裕福な家とそうではない家で格差が生じている。
- ・すべてを平等にすることは難しいが、少しずつ色々な助成をしてほしい。いっそのこと学校の学びを無償化にしてほしいと思っている。
- ・どんな親でもどんな子でもやりたい勉強を平等にできるような社会となってほしい。
- ・給食費をゼロにしたいと考えている。行政だけではなく民間でも出来ることを考えることで可能性は広がるのではないか。
- ・保育所問題や給食費については税金で成り立っていることも忘れないでほしい。

おやま井戸端会議について

- ・これからさらに必要となってくるのは「対話」というスタンスではないか。
- ・実現ありきで話をとらえてもらい、市民の努力では足りないところを官民連携で共同しながら住みやすい街づくりとしていただきたい。
- ・今後も定期的に開催してほしいが、もっと和やかに話やすい雰囲気としてほしい。
- ・関係者が多い印象だったため、一般の市民の参加を増やしてもらえるとより広い意見が出たり気軽に話せたりするのではないか。
- ・「子育て」というと参加するのはお母さんが多いとは思うが、お父さんだけで集まれるような会があってもよいと思う。